

令和元年度
第2回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：令和元年10月4日（金） 13:00～14:50

場所：一般財団法人 日本環境衛生センター 東京事務所

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

オブザーバー（敬称略）

福島県生活環境部一般廃棄物課 主幹	濱津 ひろみ
-------------------	--------

議事要旨

I 本日の議事

1. 南相馬市対策地域内廃棄物処理業務（減容化处理）について
2. 富岡町対策地域内廃棄物処理業務（破碎選別、減容化处理）について

II 検討内容

1. 南相馬市対策地域内廃棄物処理業務（減容化处理）について

冒頭、JFE・日本国土特定業務共同企業体（以降、JFE・日本国土JVと記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 集じん装置の集じん状況について

委員より、仮設焼却施設の排ガス処理設備として集じん装置を直列に2段設置しているが、前段と後段で集じん状況に違いがみられたか、との質問があった。JFE・日本国土JVより、仮設焼却施設停止時の目視確認において、前段でほとんどのばいじんを捕集できていることを確認している、との回答があった。

(2) 仮設焼却施設の補修期間について

委員より、運営期間中に実施した大規模修繕において想定していた以上の損傷は認められたか、との質問があった。JFE・日本国土JVより、安全な処理を安定的に継続するため、予防保全の考え方に基づいて大規模修繕を行ったが、大きな損傷は認められなかった、との回答があった。

(3) 焼却炉の運転管理について

委員より、機器トラブルで焼却炉の運転が止まったことはあるか、との質問があった。JFE・日本国土JVより、コンベアが金属片を噛みこんで停止することはあったが、焼却炉が停止することはなく順調に操業を行った、との回答があった。

2. 富岡町対策地域内廃棄物処理業務（破砕選別、減容化処理）について

冒頭、MHIEC・鹿島・MHI 共同企業体（以降、MHIEC・鹿島・MHI JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 設備解体後の管理基準について

委員より、設備解体後のテント内の空気中ダイオキシソ類濃度の目標値が一般環境中の大気に適用される環境基準の数値であるのはなぜか、との質問があった。MHIEC・鹿島・MHI JV より、設備解体後はテントを解体してテント内の空気が外部に出るため、テント内のダイオキシソ類濃度にも一般環境中の大気環境基準を適用することが適切と考え、自主的に基準を設定した、との回答があった。

(2) 焼却炉内の放射性物質濃度分布について

委員より、焼却炉内の放射性物質濃度分布になんらかの傾向はあったかとの質問があり、MHIEC・鹿島・MHI JV より、焼却炉内及びガス冷却室ともに上部に行くほど放射性物質濃度が高い傾向であった、との回答があった。

(3) 解体作業における留意点

委員より、今回の解体撤去工事において特徴的なことや、気を付けるべき点はあったかとの質問があり、MHIEC・鹿島・MHI JV より、基本的には一般的な焼却施設と同様の方法で除染を行ったが、除染によって生じた排水を、その都度回収する等、処理水の扱い方には気を付けた、との回答があった。

以上